

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

日 時	令和7年1月24日（金）午前9時30分～午前10時45分
場 所	羽島市役所301会議室
出席者	<p>（生涯学習都市推進会議委員）出席者17人（欠席者3人）</p> <p>松井 聡 委員(市長)</p> <p>前田 京子 委員(羽島中央生活学校代表)</p> <p>坂田田壽子 委員(社会教育委員代表)</p> <p>小森 博昭 委員(スポーツ推進会議代表)</p> <p>森山 健 委員(小中学校代表)</p> <p>下野 宗紀 委員(高等学校代表)</p> <p>栗本 善彦 委員(自治委員会代表)</p> <p>近藤かよ子 委員(学識経験者)</p> <p>小林 美雪 委員(学識経験者)</p> <p>石黒 恒雄 委員(副市長)</p> <p>森 嘉長 委員(教育長)</p> <p>三輪 弘司 委員(健幸福祉部長)</p> <p>熊崎 房子 委員(健幸福祉部子育て・健幸担当部長)</p> <p>加藤 光彦 委員(産業振興部長)</p> <p>小川 剛矢 委員(障がい者支援団体代表)</p> <p>加藤 悦子 委員(公募委員)</p> <p>田谷由紀子 委員(公募委員)</p> <p>（事務局）</p> <p>伊藤佳津子 市民協働部長 岩田 睦巳 生涯学習課長</p> <p>富田 修平 市民協働課長 柴田 泰宏 スポーツ推進課長</p> <p>水野 裕子 図書館長補佐 長江 誠 学校教育課長補佐</p> <p>浅野 貴久 危機管理課長 安田 圭祐 生活環境課長</p> <p>大橋 寛子 生涯学習課主幹 吉田 智紀 同課係長</p> <p>牛田紗耶香 同課主任</p>
内 容	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 意見交換 羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画に基づく令和6年度の進捗状況</p> <p>3 協議 次期「羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画」の策定について</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

意見交換	<p>羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画に基づく令和6年度の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき意見交換（委員及び事務局から補足説明）
委員	<p>羽島中央生活学校では、6月の開校式から始まり諸活動を行っている。会員の年齢層は高くなっているが、研修などは出席率が高く喜ばしく感じている。</p> <p>資料にある健幸フェスティバルでは、羽島市の特産品であるレンコンを使った料理の試食に羽島市食生活改善連絡協議会として参加した。同会場では野菜350g摂取や減塩啓発活動を行っていたが、保健センターでの乳幼児健診、がん検診などでも、若い世代に向けて同じように啓発活動を行っている。地域の方たちに少しでも知っていただき、知識から認識に変れば、健康維持にも繋がると思う。</p>
会長	<p>資料1の7ページには健幸フェスティバルの概要を掲載している。また資料2の健康増進等教室参加者数は、平成30年度の基準点に比べると令和6年度進捗状況は課題があると見受けられるが、担当部長は所見があれば発言願う。</p>
委員	<p>健康増進等教室参加者数については、令和6年度の12月までの数値となっており、目標に少し届かない感じではある。来年度の参加者数増に向けて、教室の日数を増やすなど工夫し目標到達を目指したい。</p>
会長	<p>健康増進に関する食生活関係については長野県須坂市をサンプリングさせていただいている。長野県は旧来から漬物が食卓に並ぶ関係で高血圧などの成人病があるため、近年県を挙げての減塩食活動が非常に盛んである。この活動においての一つの大きな原動力が、委員からのお話にあるような食生活改善等の組織を卒業された方のサポートである。さらに継続的な地域での地道な活動が根強い成果として表れている。担当部長が申し上げた通りサポート部分も含めて、さらに拡充した将来的な食生活の改善、あるいは健康作りに資するイベントなどについても企画をしてみたい。</p>
委員	<p>資料1の1ページの子育て世代への利用者支援事業は、昨年度からも引き続いており、とても充実していると感じる。もしかすると羽島への転入者が増えていく、その要因の一つにもなりとても良いことだと拝見した。進捗状況としては資料説明で全体的に良い方向に進んでいると思ったが、資料2の家庭教育学級の参加率が気になる。令和4年度数値は84%あたりと記憶しており、この年の数値が高かったのはオンラインによるものと説明であった。そこからすると令和5年度の6</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>1. 3%という数値はなぜか。組織存続の危機や弱体化は課題になっているように思うが、家庭教育というのは子どもたち、児童生徒にとって大事な場である。この数値をどのように捉えられ、来年度に向けて具体的な手立てを考えておられるのであればお聞きしたい。</p>
委員	<p>お見込みの通り80%台の数値はオンラインによるものである。令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、オンラインではなく対面が始まったということもあり、参加率が若干低い。今後はハイブリッド方式も検討しながら進めていきたい。</p> <p>また、家庭教育学級は、学校主催というよりも基本的にはPTAと共催で開催しているため、保護者のモチベーションが上がるような開催方法、さらには内容について進めていきたい。</p> <p>質問から趣旨が外れるが、とりわけ小学校低学年や就学前のお子さんのご家族の方に、保育や教育についての理解をさらに深めていただきたいというのが、教育委員会の課題である。教育委員会では附属機関である幼保小連携推進協議会教育会議を設けて、幼稚教育あるいは保育において小学校の前倒しにならない、幼稚園・保育園での学びや遊びを大切にして小学校生活を展開していく、というようなことを取り組んでいる。そのあたりを含め、特に小学校低学年の保護者の家庭教育学級への参加率を高めていきたいと考えている。</p>
会長	<p>羽島市の今現在の出生者数は400人を下回る極めて厳しい状況である。その一方、直近で開催した二十歳のつどいは、該当人数が730人で、つまり一つの大きな特徴として羽島市は子育て世代の転入が多いという局面がある。総人口としての状況は微減、例えば東濃地方などの主要都市に比べると人口減少のスピードが鈍いといえる。ご意見にある通り、子ども会の結成率、自治会の活動率は地域的格差が出ているが、担当課も様々なツールの使用などにより活動の強化に取り組んでいる。また、子ども会独自で防災や防犯などを関係機関とコラボしながら企画しているところもある。自分事として地域活動を捉えることはなかなか難しい状況ではあるが、各委員に様々な形でご指導いただくテーマとしてご認識をいただけるとありがたい。</p>
委員	<p>資料1の10ページにある市民合唱ミュージカルは70周年記念としてとても喜ばしいことだと思う。原点として情操教育は大切で、こういったことで心を豊かにしていかないと生活は貧困になっていく。心の教育を重視して、さらに芸術文化を高める取り組みをお願いしたい。</p> <p>羽島市が継続している生後4カ月健診のブックスタート事業をお手伝いしているが、最近では4カ月検診に来る親子の人数がずいぶん減っ</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>ていると感じており、出生率をお尋ねしようと思っていた。ただ地域的には若い世代の転入が増えているので期待をしている。若い世代の親さんには1, 2歳の愛着形成が一番であること、それがこれからの子育ての基本であることを訴えたい。教育方針として打ち出していくと、また違ってくると思うので期待している。</p> <p>3ページにある不登校の児童生徒についても、やはり愛着形成、人とのコミュニケーションが人間形成に一番大事だと思う。ただ最近はiPadやスマホなどのITで子どもが育っているので、挨拶を交わすといった人と人とのコミュニケーションがなおざりであることを懸念している。不登校の児童生徒の増加はどうなっているのか。</p> <p>また5ページの放課後子ども教室は良い取り組みであり、私も関わっている。コロナ禍の影響か子どもたちは人と目を見て話すことに飢えていると感じる。小学校生活などの教育の面において少しiPadを置いて、人と会話をする事の大切さを打ち出してほしい。</p>
<p>会長</p>	<p>まず10ページの市民合唱ミュージカルについて、議会でも議論があり、大幅に予算が増えているというご批判があった。これは全く間違っており、主催団体が地域振興公社から市になった関係でおのずとベースの金額が違ってくる。多くの方々にお越しいただき、実際には250万円という予算額を下回る金額で執行することができた。</p> <p>同ページの不二竹鼻町屋ギャラリーでは、市にゆかりのある若いアーティスト達が子ども向けのイベントを行ってくれておりこれは非常にありがたく今後も拡充してまいりたい。1、3、5ページについて説明願う。</p>
<p>委員</p>	<p>教育委員会所管に関わる不登校、デジタルを用いた学習や生活についての状況、今後の方針について説明させていただく。</p> <p>まず、不登校について、そもそも今の国、県、そして羽島市は特に早期から不登校は問題行動ではないと捉えている。子どもたちにとって学校の学びが自分にフィットしないということで多様な学びの一つであるという捉えである。将来的には子どもたちの社会的自立に繋がればよいと考えており、数で一喜一憂しないというのが教育委員会、特に私の思いである。12月末の数値で言うと令和5年度は170名、本年度は177名と7名の増加で、令和4年度は130名であったため伸び率は小さくなってきている。傾向として、新たに不登校になっている児童生徒が昨年比で減っているが、昨年度から継続して不登校になっている児童生徒がおり、むしろそちらに着目している。特に学校、あるいは塾など、社会と繋がっていない可能性のあるお子さんがおり、資料2ページにもあるスクール・ソーシャル・ワーカーや学校からの働き</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>かけにより、8月までに12名から8名に減少した。学校、あるいは地域社会と繋がるのが社会的自立に向けて非常に大事な要素ではないかと思う。</p> <p>また、子どもたちをサポートするために小熊小学校に新たに設けた適応指導教室、今後、サポートルームと呼ぶが、来年度は新たに市南部の中島中学校にも開設したいと考えている。</p> <p>次にデジタルについて、iPadといったデジタルを使用すると、子どもたちの成長段階に影響があるというご指摘だが、例えば不登校のお子さんはメタバースといったインターネット上の教室なら参加できるという子もいる。リアルな学び、リアルな活動を支えるためのデジタルであるというスタンスである。学校の授業においても、よりリアルな学びをサポートするためにバーチャルリアリティ（VR）を活用して、災害や奈良の大仏の中に入ってみるといった体験を授業でタブレットを使ってなされている。そういう意味では闇雲にデジタルを排除していくという考えは今のところないと申し伝える。</p>
委員	<p>決してデジタルを否定しているわけではなく、時代に沿っていいのだが、その前に人が直接対面で会話する人とのコミュニケーションがなされてから行ってほしい。</p>
委員	<p>最初はリアルから入っており、小学校低学年からの段階ではデジタルはあまり使っていない。例えば堀津小学校をモデル校区に指定して、小学1年生と保育園や幼稚園をどう繋ぐか、ということを行っている。小学校に入ると教科の勉強があるが、堀津小学校では4月は国語と算数は行わず、1日を遊びで始めて先生は見守る。幼稚園や保育園で行うお誕生日会を小学1年生で子どもたちの運営で行う。そういったリアルな遊びあるいは学びを大事にした取り組みを行っているので、一度学校を見に来ていただけるとよいかと思う。</p> <p>むしろ私達が気になるのは家庭の方である。先日ある文章に、保護者の方がスマホやタブレットに依存しており、家庭においてお子さんと向き合っていない現状があると書いてあった。例えば小さいお子さんが積み木を積み上げて上手にできたとき、お母さんの顔を見て反応を見るが、お母さんは一生懸命スマホを触っている。そういう意味では学校の教員が生徒が発言している最中にタブレットを触っているということはないので誤解ないようにいただきたい。</p>
会長	<p>高齢者向けについては、既に南部にも様々な暮らし向きに応じた施設がある。子どもの関係も予算査定の最終段階であるが議会了承後は、南部にも施設を整える準備を進めている。</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

委員	<p>私は自治委員として様々な形で事業を企画し住民参加を募っているがなかなか人が集まらない。資料2の目標指標に対する現状値とあるが、何か参考になるノウハウがあればお聞きしたい。資料2に出前講座の実施数とあるが、基準時点が82回で現状値の令和6年度は56回とコロナ禍の影響もあって大きく減っている。資料1の6ページには、出前講座を74テーマ設け、YouTube配信も行ったとある。ただこれが結果に表れていない。この背景理由、あるいはこれに対して来年度以降どう進めていくかがあれば教えてほしい。</p> <p>次に資料2の総合型地域スポーツクラブに加入している人数について、基準値1,471人で現状値1,580人と多く増えているが目標値は1,950人である。これも大きく目標値を下回っているが、同じく背景理由と来年度以降どう進めていくかがあれば教えてほしい。</p>
会長	<p>資料2にある出前講座の目標値だが、令和6年度現状値は12月1日現在のものであるため数値に乖離がある。事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>出前講座の開催数は現在64講座というところまできており、YouTubeについても、今年度さらに2講座作っている。</p> <p>コロナ禍を経てようやく出前講座の申し込みが増えてきたと捉えているが、数字が伸びてこないことについては、広報の工夫が必要と考えている。出前講座の申し込みは、防災に関する講座が圧倒的に多く健康に関することも多い。広報の中でどの分野が人気かなども含めて周知していきたいが、自治会においてもお知らせいただけるとありがたい。</p>
委員	<p>防災は自治会でも力を入れており、私の地域でも、昨年今年と防災の出前講座をお願いした。防災の講座ではないが、色々協議しても参加者が少なく委員に声掛けをしている。何とか一人でも多くの方に自主的に来ていただけるような雰囲気を作っていきたい。</p>
事務局	<p>資料2にある総合型地域スポーツクラブに加入している人数だが、令和4年度1,552名、令和5年度が1,577名となっており、伸び率は4年から5年は25名、5年から6年は3名にとどまっている。要因としては、中学校における休日の運動部活動の地域移行ということで、中学生の統合型地域スポーツクラブへの加入も見込んでいたが、クラブ創設当時からすでに中学生が加盟している状態であったため、伸び率が見込みより鈍くなっている。今後としては、総合型地域スポーツクラブで中学校の文化部活動も移行する動きになっているため、文化部部員がクラブに加入することによる人数の増加を見込んでいる。</p>
会長	<p>他にご意見があれば承りたい。</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

委員	<p>学校ではコロナ禍以降、行事が復活してきている中でiPadの導入があり、授業へのツールとしての活用やイベントでの活用を含めて取り組んでいる。活用方法については模索中ではあるが、年を追うごとに子どもたちの教育に入り込んでいると理解をしている。</p> <p>スポーツクラブ840の創設は、中学校にとって非常にありがたい。羽島市は全国でも先駆的な動きで、実績が全てではないが、今年も全国規模で東海地区出場の選手など成果としてはかなり上がってきている。休日運動部活動のクラブ移行の成果が上がり、その上で今回、文化系の茶華道部・美術部がスタートした。この後吹奏楽部や市内の他の文化系の部門もスポーツクラブ840に入り込みスタートする形で、中学校また地域の環境が整う。行政・学校・クラブとの連携の中で進んでおりこれからも活動人数は上がっていくと思う。</p> <p>スクールソーシャルワーカーだが、学校との連携や教育支援センターを含めて、問題や課題を抱えるご家庭・お子さんへのアプローチを進めさせていただいている。資料1の3ページにもあるように、スクールソーシャルワーカーの増員等はぜひお願いしたい。</p> <p>最後に防災について、各学校では年3回ほどの命を守る訓練を含めて様々な防災教育を行っている。南海トラフのことが言われてから、かなり力を入れており多様な形で進めるなかで、市で訓練のあり方、観点やポイント、市を含めた考え方とかシステムなどを構築されていくことが、学校を挙げて大切ではないか。羽島市がもし被災したときは、北部の羽島中学校と南部の桑原学園で状況が変わらず同じような状況になると思われるので、危機管理課や教育委員会を含めて、学校としてどのように考えていけばいいのかを具体的な動きとして学校とリンクしていけないかと思う。</p>
会長	<p>他にご意見があれば承りたい。</p>
委員	<p>防災の関係で、先日竹鼻町自治会で中能登町へ行ってきた。中能登町で聞いたが、元々避難所では200名程度の受け入れを考えていたが、津波が来るとなり実際には1500名ほどが避難した。防災訓練の時には、予想外が起こるということも含めて実施しなければならない。そういったことも含め、今後計画を立てていただければありがたい。</p>
会長	<p>その他よろしいか。</p>
委員	<p>資料2の健康増進等教室参加者数が非常に少ない。他の委員も私もまた別のところで羽島市食生活改善連絡協議会に関わっているが、やはり食べ物で体は作られるという観点を様々な計画の中でも深く掘り下げ織り込んでいただきたい。</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

委員	<p>食育の大切さということで、例えば幼稚園や保育園といった乳幼児の幼児教育施設での地道な活動や、食生活改善推進員の方にレシピなども開発いただいている。健康は様々な活動のベースであり、食育は健康増進という中に含まれる一つの大きな要素なので、情報発信も含め進めていきたい。</p>
会長	<p>次に5カ年計画の策定に向けて事務局より説明する。</p>
協議	<p>次期「羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画」の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき質疑応答
委員	<p>市民アンケートの調査設計について、様々な行事を行っても若い人がなかなか出てこない。自主参加というのはなお大変難しい。参加者はお年寄りの方が大変多いため、高齢者の意見もより強く見ていただきたいという一つの提案である。</p>
会長	<p>13年ほど前は、このようなサンプリング調査を実施すると楽に50%を超える回答率があり、ある程度市の様々な計画の方向づけとなる貴重な資料であるという認識であった。しかし最近はこの下回る。サンプリング調査の信頼度が厳しいなかで、ご意見はごもっともなところがあると思う。やはり市民の総意としてはサンプリング調査に基づくが、例えば、回答結果について総括的に高齢者の方はこの特徴的な意見がある、といったアジェンダができる。そのような検討をさせていただきご理解を賜りたい。</p>
委員	<p>生涯学習都市づくりは、私としては障がい者を作らない社会作りの部分としてはとても大事だと思っている。先の話の中でも、健康とか生涯スポーツというものは障がい者というより、一生楽しんでスポーツができる、健康であるということが、地域の障がい者を生まないと。今この障がい者、身体障がい者の世界でいうと、約75%が65歳以上である。ということは、やはり障がい者イコール高齢者。高齢者イコール障がい者という時代となる中で、やはりその障がい者を生まないことで社会福祉の負担が市として少なくなる。そういうことにおいてもスポーツ、健康というのは非常に大事と感じている。</p> <p>この生涯学習都市づくりで、ボッチャというスポーツがこれほど普及した地は羽島市しかない。岐阜県パラ関係連絡会議において様々な話を聞く中でもこの羽島市が一番進んでいると。これは成果だと本当に感じており、次の世代の施策についても続けていただきたいと感じる。</p>

令和6年度 第2回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>先ほど自治会の方からも話があった情報把握というのは、厚生労働省の施策の中でもICT機器の普及促進ということで、障がい者高齢者の色々な情報把握は問題ではないかと取り上げられている。iPadの話もあったが情報共有、情報把握を考えていく時代ではないかと考えて、意見等していきたい。</p>
委員	<p>アンケートについて、様々な年齢層の方の意見を聞くのはとても大切と思っている。インスタグラムなどを見ると、羽島市にも未満児の子たちを抱えて活動している若い人たちがいるが、そういう人たちはなかなか自治会には出てこない。若い人は仕事している方が大変多いが、そういう人たちの意見を聞く、NPO団体の意見を聞く、高齢者の意見を聞く、というのも一つだと思う。</p> <p>私の家族も常にスマートフォンを見ている。やはり情報を得ようと思うのならホームページなどを見るので、アンケートもどこまで正確なものが取れるかわからないがそこから取れるものもあるかもしれない。</p>
委員	<p>先に委員から対面を大切にという話があり、教育長がお答えになった通りだが、ご意見には全く同感である。最近の羽島高校は羽島市唯一の高等学校として、落ち着いた学校生活を送れる生徒が増えている。まもなく発表される現中学3年生の本校希望者も増えているという状況である。そこで、我々が何を掲げてきたかということ、「寄り添い」「対話」「共感」であり、心理的安全性を学校として重視してきた。この羽島市においても、生活している市民の皆さんの心理的安全性が担保されていると感じるし、その点が更に良くなるとよいと感じている。</p> <p>羽島高校の取り組みについて少しお話しさせていただくと、人材も再生産される持続可能な地域の創生を目指している。羽島市で学んだ方が本校に来て、そして地元の大学への進学や地元就職をして、その方々が羽島で活躍されて、そしてまたそのお子さんたちが我々のもとに入ってこられるという循環型で持続可能な地域創生の中心、核、ハブに、高校がなれるとよいと思う。お陰様で、間違いなくいま羽島市は県立高校と地元自治体との関係性が岐阜県の中で最もよい状況にある。</p> <p>また、羽島高校としても羽島市の掲げられる生涯学習に協力したい。アンケートについても、本校生徒にも18歳になった生徒がいるので、若者の声を聞いていただければ、協力させていただきたい。</p>
	閉会